ニセナシサビダニ

○ 被害と発生生態

成虫の体色はクリーム色。体長が 0.2mm 弱の極めて微小なダニで、くさび形で脚は２対である（写真）。肉眼で確認することはほぼ不可能であり、葉に被害が生じて初めて本種の発生に気づくことが多い。

ナシのみに寄生し、本州、四国、九州のナシ産地に広く分布する。徒長枝先端の柔らかい新葉を吸汁加害し、被害葉は変形、褐変し、早期に落葉する。多くの品種に寄生するが被害の出方は品種によって異なり、新葉に毛が多い「二十世紀」において被害が激しくなる。他の品種では被害が軽微である。成長が早く、25 ℃条件下では約５日で卵から成虫になる。そのため、気温が高くなると急速に被害が拡がることがある。

成虫で越冬し、越冬場所は芽の基部や枝表皮の割れ目、枝の古い切り口等、ナシの樹の様々な隙間である。越冬後、成虫が５月頃から発生し、６～７月に発生盛期を迎える。その後、８～９月には越冬場所へ移動する。

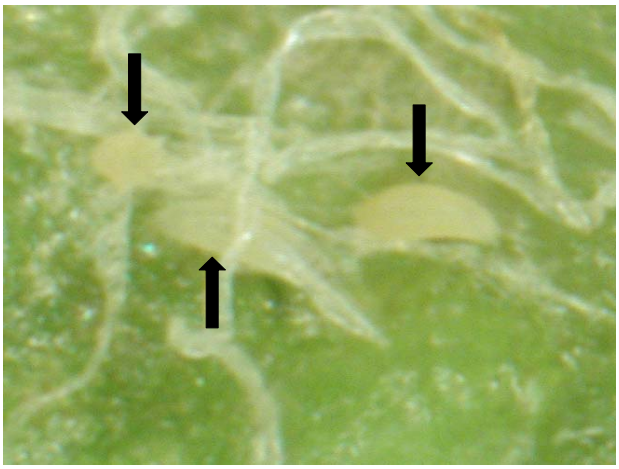
○ 防除方法

（ア）耕種・物理的防除

・剪定、粗皮はぎ等により、越冬成虫の密度を低下させる。

（イ）薬剤防除

・機械油乳剤の散布により、越冬成虫の密度を低下させる。
・成虫発生初期の５月上旬、増加期の６月上旬に薬剤防除を行う。
・徒長枝先端に薬剤が良くかかるように散布する。



葉裏の毛に潜む成虫（矢印）

新梢先端の変形葉